

平成 30 年 12 月 20 日

釜石市議会議長 佐々木義昭 様

会派名 清流会

報告者 平野 弘之



会派視察調査報告書

当会派所属議員による視察調査を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

【視察項目 I】 : 質問・質疑で議員力を高めるセミナー (株)地方議会総合研究所

1 セミナー会場 : 東京都豊島区東池袋 1-6-4 706 号室

2 セミナー内容 : 質問・質疑で議員力を高めるセミナー (株)地方議会総合研究所

「効果的な質問・質疑を目指して」 10:00~12:00

「一般質問から始める 議案提案条例」 13:00~15:00

「不穏当・不規則発言 にどう対応するか」 15:15~16:30

3 視察日程 : 平成 30 年 7 月 19 日

4 参加者 : 菊池秀明 平野弘之 大林正英 佐々木聡

5 研修概要

○ 研修日 : 平成 30 年 7 月 19 日 午前 10 時 00 分~午後 16 時 30 分

○ 講師 : 元全国都道府県議長会議事調査部長 野村 稔 様

元衆議院法制局参事 吉田 利宏 様

(株)地方議会総合研究所代表取締役 廣瀬 和彦 様

6 視察に取り上げた理由

- ・ 議員として市民の負託に応えるためには自己研鑽を積む必要があり議員の資質向上を目指す上で本セミナーのテーマは有意義であると判断した。

7 視察内容

- ・ 「効果的な質問・質疑を目指して」
議員は次の定例会で検討、善処の結果について質問する必要がある。
これをしないと、その場限りの答弁に終わってしまう。
不確かな答弁、修飾語の多い答弁に満足するな。
- ・ 「一般質問から始める 議案提案条例」 残念な質問事例



論点が多すぎると質問がぼやける。

個別要求的すぎる質問

自身の政治信条の演説に終始した質問

執行部への謝辞は時間の浪費

- ・ 「不穏当・不規則発言 にどう対応するか」 発言における品位の保持
公の問題を議論する場であって議事に関係のない問題を議論すべきでない。

8 所感

- ・ 受講して改めて思うがスキルを上げるためには時間、努力、費用がかかる政務活動費をいかに有効に使って議員の資質を上げるかは、しっかりと吟味して活用すべきだ。
- ・ 講師3名から講義を受けて特に印象深い講義内容は「残念（望ましくない）な質問」の例であった。的を得た指摘であり自身もしっかりと心に刻み会議に望みたい。

【視察項目 II】

(1) AOI-PARC 内 一般財団法人アグリオープンイノベーション機構

〒410-0321 静岡県沼津市西野字霞 317 電話:055-939-5106

<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-310/sentannougyou.html>

日 時：平成30年7月20日（金）9:30～11:00

相手方：専務理事兼事務局長 岩城 徹雄 様

場 所：施設内会議室

研修内容：

- 農業は従事者の減少など課題もあるが、健康医療との関係など成長分野として高い潜在力が期待される。そこで科学技術やものづくりの技術を農業分野に応用し、農産物の高品質化、高機能化、高収量化、低コスト化の実現を目指している静岡県の AOI-Project（先端農業プロジェクト）を視察先に選定した。

所感・課題：

- 当該施設のような機能を当市で新設する必要性は全くないが、アグリオープンイノベーション機構が進める AI 学習システムを利用して、例えば篤農家の暗黙知を形式知化して栽培技術の学習期間を短縮するなど、地域特有の果実（甲子柿やチョコログなど）の栽培ノウハウをデータ化する仕組みは一考すべき事案であると思料する。
- 静岡県が慶應義塾大学、理化学研究所等と進める先端農業研究プロジェクト推進施設。慶應義塾からは SFC の神成（しんじょう）研究室が参画している。

(2) 富士聖地_バイオマス・トイレ

〒418-0102 静岡県富士宮市人穴 812-1 電話:0544-29-5100

<https://www.youtube.com/watch?v=tLkVNFCXsPY>

日 時：平成 30 年 7 月 20 日 (金) 13:30~14:30

相手方：(株) バイオマス富士 専務取締役 大内 弘朗 様

ムゲンシステム (株) 代表取締役 伊藤 彰 様

場 所：白光真宏会_屋外トイレ

研修内容：

- 富士山麓朝霧高原に設置した世界最大の循環水洗トイレ (稼働後 13 年を経過)。運用、稼働状況について視察する。

所感・課題：

- 120 基の便器がある大規模なもの。月に一回の大集会は毎回 5,000 名から 10,000 名の方々が訪れており、年間約 12 万回使用されている。設置一年後の総点検では、水以外は (ゴミなど少量の汚泥も含めても) バケツ 2 杯程。閉鎖循環で繰り返し水洗水を使用し給水も排水も、更には汲み取りも必要ない。特筆すべきは、薬品も使用していないのに普通のトイレより匂いがしないこと (アンモニアの分解に優れた微生物が働いたため)。
- 従来は健全な水循環の観点から市町村単位で下水道処理場を建設・管理するのではなく、いくつもの市町村からの下水道を大きな幹線パイプでまとめて下流に巨大な処理場を作って一括処理しようという構想であった。しかしながら、規模が大きい流域下水道がどれぐらい不経済なのかを示された論説 (2004 年、中西準子『環境リスク学:不安の海の羅針盤』) において、人口密度の低い地域では一戸一戸、家庭ごとに下水道処理装置 (「個人下水道」) を設置することが提案されている (1982 年)。
- 当市においても、災害時の復旧や日々の運用管理コストの低減を考慮した下水道処理装置の再配置の検討が必要と思料する。

(3) 富士山世界遺産センター

〒418-0067 富士宮市宮町 5-12 電話:0544-21-3776

<http://www.fujisan-whc.jp/>

日 時：平成 30 年 7 月 20 日 (金) 15:00~16:30

相手方：副館長 落合 徹 様

場 所：施設内会議室

研修内容：

- 釜石市の管理する世界遺産の普及啓発に資するため、視察先として選定する。

所感・課題：

- 静岡県富士山世界遺産センターは、平成 25 年に世界文化遺産に登録された富士山の拠点施設として昨年 12 月 23 日に完成した。設置目的は「世界遺産を保護し、保存し、整備し及び将来の世代へ伝えることを確保する」であり、学術調査機能なども併せ持つ。
- 副館長は「進化する博物館」を目指し、常に話題提供の継続を旨としておられた。特に常設展示のリニューアルのための予算を潤沢に確保し、富士山資料をセンターの資産として独自に追加購入している。当市とは規模の差は否めないが、目指す方向性や具体的な予算化などは同感される部分であり、まずは世界遺産への誘客に向けた具体的な動きの実態を学ぶ必要がある。

【配布資料・視察風景の記録】

- (1) 質問・質疑で議員力を高めるセミナー
 - (2) 地方議会総合研究所
 - (3) AOI-PARC
 - (4) 循環式水洗トイレ
 - (5) 静岡県富士山世界遺産センター
- 視察風景の記録

以上